

たかしま流見守りネットワーク活動 ちょっと素敵なエピソード集



発行：社会福祉法人高島市社会福祉協議会

もくじ

はじめに	1P
たかしま流見守りネットワーク活動 3つのお約束	2P
たかしま流見守りネットワーク活動 ちょっと素敵なエピソード集	3P
エピソード 1 「認知症になっても安心な居場所をつくる」	4P
エピソード 2 「ペットも大切な家族」	5P
エピソード 3 「障がいがあっても、気兼ねなく寄れる場づくり」	6P
エピソード 4 「見守りを通じて、ひとりぼっちにしないまちづくり」	7P
エピソード 5 「住民と専門職が協働して暮らしをささえる」	8P
エピソード 6 「災害時にも活きた日頃の見守り①」	9P
エピソード 7 「災害時にも活きた日頃の見守り②」	10P
エピソード 8 「得意なことでボランティア」	11P
エピソード 9 「気になる人をそっと見守る①」	12P
エピソード10 「気になる人をそっと見守る②」	13P
エピソード11 「訓練しておいてよかった！」	14P
エピソード12 「孤立させない地域づくり」	15P
エピソード13 「牛乳屋さんも新聞屋さんも見守りの仲間」	16P
エピソード14 「これってみんなの問題」	17P
エピソード15 「見守りで悪質商法を防ぐ」	18P
エピソード16 「数日誰とも話していない」	19P
エピソード17 「見守り活動が命を救う」	20P
エピソード18 「家族をまるごと見守る」	21P
エピソード19 「ひとりぼっちにしない取り組み」	22P
エピソード20 「見守りカフェで若い世代のつながりづくり」	23P
エピソード21 「遠く離れた家族も安心」	24P

はじめに

～たかしま流見守りネットワーク活動から 生まれた、助けあいのものがたり～



平成23年度に24の区・自治会から取り組みが始まった見守りネットワーク活動は、平成27年度に82の区・自治会、市全体の4割を超える活動に広がっています。

この取り組みは、ご近所、友人、知人同士のつきあいの中で、改めてお互いを気にかかけあう「お互い様」の関係をつくり、ひとりの人の問題をみんなの問題として考え、誰もが孤立することなく、暮らしやすいまちにするための住民主体の「まちづくり活動」といえます。

このような活動が広がっていく中で、書き留めておかなくても消えてしまう、とても心温まる素敵な「できごと」が、日常生活の中で自然におこなわれていることを見逃すことはできません。

見守りネットワーク活動を通して生まれた、ひとつひとつのエピソードから、様々な気づきや学びを受け取っていただき、自分だったら、自分の地域だったらどうなるだろうと想像しながらお読みいただけると幸いです。

たかしま流 見守りネットワーク活動 3つのお約束

✓ 地域ぐるみの活動にする

区長・自治会長、民生委員児童委員、福祉推進委員長の三役に合意をしていただき、地域の様々な団体の協力と住民ボランティアの参加を得て、一部の役員だけでおこなうのではない、地域ぐるみの取り組みにしましょう。



✓ 気になる人を見守る

一人暮らし高齢者など、見守る対象を限定していきがちですが、うつ、ひきこもり、ひとり親世帯、障がい者世帯など、年齢に関わりなく、孤立しやすい方が増加しています。近隣住民ならではの気づきを活かした取り組みを進めましょう。



✓ 見守り会議の開催

定期的な見守り会議を開催して情報を共有し、時には専門職を招いて一緒に考えましょう。活動を通して発見された困りごとが、住民による助けあい活動や、公的な福祉サービスにつながります。見守りっぱなしにせず、活動の振り返りをおこなうことが大切です。



たかしま流見守りネットワーク活動 ちょっと素敵なエピソード集



認知症になっても 安心な居場所をつくる

1

区内に仲の良い認知症の女性が二人いましたが、一人がデイサービスを利用することになったため、残ったお一人が自転車で頻繁に外出するようになったそうです。時間を問わず外出し、周囲ともうまく関係が築けないため、カフェやサロンでも孤立しがちになっていました。そこで見守り会議を開催し、福祉推進委員がカフェに誘うことを決め、来られた際には周囲に福祉推進委員が座ることで、うまくお話ができるようにしていくことを決めました。



ペットも大切な家族

2

一人暮らしの高齢の方で老いた犬を生きがいにされていた方がいました。「犬を放っておけないから」と入院や施設入所を頑なに拒まれていましたが、いよいよ状態が悪化し、施設に入所されました。犬は飼い主もなく保健所に連れて行かれたのですが、犬が生きがいだった方の気持ちを知っていた見守り隊員が手をつくし、次の飼い主を見つけました。犬はあと10分で殺処分されるところで助かったのです。

1か月後、新しい飼い主の元で元気になった犬の写真を持って民生委員が施設に見舞いに行ったところ、犬が無事元気でいてくれることを泣いて喜ばれました。人間だけでなくその方の生きがいであった犬をも救えたことで、見守り隊員の自信と結束がさらに深まったそうです。



障がいがあっても、 気兼ねなく寄れる場づくり

3

身体に障がいがあり、迷惑をかけるからとカフェに来ない方がいました。区の会議で見守りネットワーク活動助成金を使って、草の根ハウスのトイレに手すりをつけることが決定し、工事が行われました。入口の段差は見守りネットワークのメンバーが介助していましたが、トイレは狭く、ご本人もトイレを介助してもらうことは嫌がっていたので、この工事を機に来てくれるとよいなと話しています。



見守りを通じて、 ひとりぼっちにしないまちづくり

4

奥さんに先立たれ、一人暮らしになった高齢の男性がいました。ふさぎ込みがちになって人の集まりにも来なくなり、生きがいにしていた畑仕事も止めてしまったそうです。そこで、民生委員、福祉推進委員と専門職が見守り会議で話し合った結果、ワンコインカフェに誘うことにしました。民生委員、福祉推進委員が何度か訪問し、男性も徐々に心を開いてくれるようになり、ワンコインカフェにも参加されるようになりました。もともと社交的な方だったこともあり、参加者とも仲良く交流され、今では月1度のカフェを楽しみにされています。



住民と専門職が 協働して暮らしをささえる

5

認知症が悪化し、不意に外を歩かれる一人暮らしの高齢女性がいました。髪も伸び、入浴もできていない様子でしたが、家庭の事情もあり、住民はその人にどう関わって良いか分からなかったそうです。また、火の不始末を何度も起こしていたので、火事にならないか心配でした。見守り会議を開催し、地域の見守りボランティア、民生委員、保健師、社協などが連携して、介護保険サービスと病院の利用につながりました。現在はデイサービスで心許せる友達もでき、得意の洗濯や調理、配膳を手伝うなど、いきいきとされ、地域の見守りの中でお暮らしになっています。



災害時にも 活きた日頃の見守り ①

6

平成25年の台風18号で大雨災害があった時、私の区も全戸避難をすることになりましたが、介護が必要な親がいたため避難をあきらめていました。しかし区長さんが訪ねてきてくださり、「逃げていないのはあなたの家だけやで！」と避難を手伝ってくれました。普段から見守りをされていて、どこに要支援者がいるか分かっているからこそ、できたことだと思います。



災害時にも 活きた日頃の見守り ②

7

見守りネットワークのメンバーに区の組長が入っていて、平成25年台風18号の大雨の時には避難が素早くできました。重度の身体障がいの方や重病人の避難についても住民が声をかけあって避難を手伝い、全世帯の避難が無事に完了しました。見守りネットワークが災害時にも助け合える支援体制になっていることを実感できたそうです。



得意なことでもボランティア

8

見守りネットワーク活動で訪問をしていた障がいのある高齢の女性が、家を改修したとのことで様子を見にいくと、よく滑るフローリングになっていました。このままでは車いすごと玄関の段差に転落してしまうかもしれないと心配な状況でした。見守りメンバーに大工工事ができる人がいたので、玄関先に滑り止めを取り付ける工事をして喜ばれたそうです。



気になる人を そっと見守る ①

9

ご夫婦とも認知症高齢者の二人暮らしで、見守りメンバーの訪問を拒否されていたお宅がありました。それでも見守りメンバーはそのご夫婦を気にかけて、そっと見守りを続けていました。ある日、奥さんの様子がおかしいことに気づいたメンバーが、民生委員と保健師を呼んで一緒に自宅に入ったところ、ご主人は亡くなられていました。その後、この件に関する振り返りを見守り会議でおこない、ご主人は残念なことになったが、見守りネットワークをおこなっていたことで、奥さんの命は救われたのではないか、見守りを拒否されても、気になる人を放っておかない地域づくりをしていこうとみんなで確認されました。



気になる人を そっと見守る ②

10

ご夫婦とも認知症の二人暮らしの家庭のご主人が入院することとなりました。奥さんは自宅にいることを望まれたため一人で家に残っておられました。近所の方が心配してそっと見守りを続けていましたが、真夏の暑い中、何日も留守状態で返事もないことが続いたそうです。訪問したヘルパーさんも留守であることを不審に思い、市の保健師へ連絡。警察官と保健師が駆けつけ、民生委員が家の中に入ると、奥さんは仰向けで倒れており、脱水状態になっていました。あと少し発見が遅ければ命が危ぶまれていたという医師の診断があり入院をされました。



訓練しておいてよかった！

11

見守り会議の中で、区民を対象に認知症の啓発が必要という結論になり、手始めに子どもを対象にした認知症の勉強会を開催しました。その後、住民が参加して「認知症一人歩き保護訓練」をおこないました。すると偶然にも、訓練の三日後、実際に遠くを目指して歩く、見知らぬ女性を区内で保護する出来事が起こりました。ご自分の名前も二転三転し、正確なことがわからない中、民生委員と連携してその方を無事にご家族の元に送り届けることができました。



孤立させない地域づくり

12

ワンコインカフェの後に見守り訪問をしているが、訪問を重ねるうちに区の集まりにも来ない方と親しく話せる関係になりました。地域から疎外されているのではなく、地域の一員としての生きがいを感じてもらえていると見守りネットワークの成果を感じています。見守りメンバーにも「高齢者を孤立させてはいけない」という認識が広がり、本当によい地域になったと思います。



牛乳屋さんも新聞屋さんも見守りの仲間

13

手足が不自由な一人暮らし高齢者のお宅の玄関先が、石畳になっていて冬場は滑りやすく、門柱にあるポストまで毎朝新聞や牛乳を取りに行くことが本人の負担になっていたことが、見守り訪問でご本人から話を聴いてわかりました。見守り会議で相談して、新聞屋さんと牛乳屋さんにポストを玄関脇に移してもらい、ご本人に大変喜んでいただいたそうです。



これってみんなの問題

14

足が不自由な方から、「サロンに行きたいが集会所の石段が登れなくて行けない」という話を見守り訪問の時にご本人から聴いて、見守り会議で話し合い、次年度に区で予算を付けて手すりをつけようということになりました。今の私たちは石段が苦にならないが、いずれ高齢になったら皆もそう感じる。一人の意見でも皆の問題として考えないといけないと思ったのです。



見守りで悪質商法を防ぐ

15

一人暮らしの耳の遠い高齢者Aさんが、訪問販売で高額な商品を購入されたそうです。それに気づいた民生委員が、見守り会議で相談を持ちかけられました。Aさんの息子さんに連絡してクーリングオフができましたが、人目が届きにくい立地のお宅なので、その後も見守りを強化するようにしました。その後、Aさんは社協の地域福祉権利擁護事業も利用されるようになりました。



数日誰とも話していない

16

都会に住む息子さんもたまに帰ってきて、特に心配のなさそうなお一人暮らしの高齢者がいました。元気に暮らしておられるのですが、見守りネットワークでお宅を訪問すると、なんと1時間ほど会話が止まりませんでした。その方は、もう何日も誰とも会話をしていなかったのです。「こんなことがあるんだ」と気がつきました。何も言わないからお元気と勝手に決めるのではなく、ご本人と話をすることの大切さを知りました。



見守り活動が命を救う

17

見守り訪問で、区長が一人暮らしの高齢者のお宅に行ったところ、その方が転倒して身動きがとれない状態になっていました。すぐに家族や区民の方にも連絡を取り、通院の対応をおこない、幸い入院もせずに済みました。見守りネットワークのおかげで、一命をとりとめることが出来たのと、区民全体にあらためて見守りの大切さを分かっていただく機会となりました。



家族をまるごと見守る

18

高齢者夫婦と自宅にひきこもりがちの息子さんが同居。妻が認知症になり、デイサービスを利用されるようになりました。しかし、夫がいないと不安定になることもあり、うまくいかない状況が続いて、夫の介護負担も大きくなってきました。見守り会議で話し合い、認知症についてみんなで学習をしました。その後、夫婦そろってカフェや地域の健康体操にも参加するようになり、見守りメンバーが夫に「ケアメンカフェ」（男性介護者の会）を紹介して参加するようになりました。みんなで課題を共有することで、認知症の問題だけでなく、ひきこもりの方についての支援の難しさも学ぶことができたそうです。



ひとりぼっちにしない取り組み

19

一人暮らしの高齢者で、区内であまり人付き合いをされず孤立ぎみの方がいました。見守りメンバーが毎月欠かさず訪問していると、徐々に月一回の訪問を楽しみにされ、訪問時には、一時間近くおしゃべりされるようになりました。区民の方とはあえて距離を置いていると思っていたが、実は大変寂しい思いをされていた事に気づいたそうです。



見守りカフェで 若い世代のつながりづくり

20

今までサロンや趣味の会を通じて、住民のつながりづくりを進めてきましたが、若いお母さん世代や子どもの参加はありませんでした。見守りカフェを始めることになり、若い世代のつながりづくりを目標にしました。たくさんの方に来てもらおうと、チラシを全戸配布し、青年団にも協力してもらって軽トラに拡声器を付けてカフェを案内しました。おかげで多くの若い方が来てくださり、今までつながりの無かった同世代の親や子ども達が集まり、ふだん話ができない人同士がつながるきっかけとなっています。



遠く離れた家族も安心

21

見守り隊の訪問をいつも大変喜んで下さるお一人暮らしのAさん。息子さんは遠く離れたB県にお暮しですが、ある時病気で入院し、Aさんから連絡できず、とても不安になっているところを見守り隊のメンバーが心の支えになっていました。後日、退院された息子さんが、Aさんから話を聞いて、見守り隊にお礼のあいさつに来られました。遠く離れて暮らしている家族にとっても、見守り隊は大変心強い存在になっている事を実感しました。



たかしま流見守りネットワーク活動 ちょっと素敵なエピソード集

発行日:2016(平成28)年 3月26日

発 行:社会福祉法人 高島市社会福祉協議会

〒520-1121

滋賀県高島市勝野215番地

電話:0740-36-8220 FAX:0740-36-8221

<http://takashima-shakyo.or.jp/>

※この冊子は、高島市社会福祉協議会のウェブサイトから閲覧、
ダウンロードできます。



おかげさまで70周年

赤い羽根 たかしま見守り基金

この冊子は共同募金の助成を受けて作成しました。